

電力インフラグループ

POWER INFRASTRUCTURE BUSINESS GROUP

需要拡大の好機を捉え、 供給力強化と収益性改善を 推進します

常務執行役員
電力インフラグループ長
今 伸一郎

経営指標 2025年度実績

受 注 高	» 1,161 億円	2026年度計画(7月見直し時点) 1,328億円
売 上 高	» 1,008 億円	2026年度計画(7月見直し時点) 1,203億円
営業利益 (営業利益率)	» 125 (12.5%) 億円	2026年度計画(7月見直し時点) 145億円 (12.1%)

グループの実績・成果

受注高は2024年度に計上したインド高速鉄道案件やシンガポールにおける大型案件の反動で減少したものの、売上高・営業利益はともに過去最高を更新しました。海外の変電事業では、環境規制強化を背景にアメリカにおけるSF₆ガスフリー真空遮断器の販売が伸長したことに加えて、収益基盤であるシンガポールも安定的に推移したことから、増収増益となりました。国内を主体とする電力エネルギー事業も電力会社向け案件を中心に、豊富な受注残の着実な売上進行や受注時採算、工場稼働率の改善に伴う収益性向上が寄与し、増収増益となりました。世界的に電力インフラ投資が加速する中、受注拡大と売上計上を着実に進めるとともに、収益性の改善も進展しました。

【機 会】

- 欧州の環境規制強化や北米の脱炭素計画、更新需要増加に伴う当社特長製品の商機拡大
- 国内での経年設備の計画更新とデータセンターへの電力供給に伴う需要拡大継続
- 国内での再エネ比率向上に向けた水力・風力需要の拡大及び系統調整力の強化に伴う蓄電システムへの投資増加

【リスク】

- 地政学リスク・為替・各国の貿易や投資政策などの大きな変化
- 大型案件の売上時期の後ろ倒しや資材・エネルギーコスト高騰による採算性の悪化
- 競合他社の設備投資拡大による受注競争の激化

【強 み】

- 国内電力会社への長年にわたる豊富な納入実績と国内拠点の保守対応力
- 環境対応製品の製品力と海外拠点を含めた最適コスト・供給力
- 電力変換製品での蓄電池、系統連系を含めたシステム対応力
- 再エネ電源にかかわるO&M知見(水力・風力)

市場環境の見通し

世界的な電力需要の増加を背景に、電力インフラへの投資は引き続き堅調に推移する見通しです。アメリカや欧州でのSF₆ガス規制の強化や再エネの導入拡大が進む他、インドなどの新興国では新設需要の拡大も見込まれ、変電設備への需要は底堅く推移すると想定されます。国内においても、電力会社による電力安定供給維持でのレジリエンス強化やデータセンター需要対応での投資が継続する見込みです。一方で、銅や銀をはじめとした部材価格や人件費の上昇、地政学リスクの高まりによるサプライチェーンへの影響やプロジェクト遅延などには引き続き注視が必要ですが、地産地消体制の構築などにより、これらの影響に対して一定の軽減を図っています。

「中期経営計画2027」における進捗・今後の展望

成長戦略 1 製品

環境対応製品の拡販による 成長基盤の強化

マテリアリティ：カーボンニュートラル社会の実現

環境対応製品を中心とした製品競争力の強化を成長の柱とし、真空遮断器や真空インタラプタ、C-GISなどの開発・市場投入を進めています。特に真空遮断器では123kV機種を北米向けに新たに投入し、製品ラインアップを拡充したことに加え、新たな展開先として、シンガポールでも受注活動を強化しています。国内市場においては、送電用変圧器の供給力強化を進めるとともに、顧客との協働による仕様標準化や原価低減の取組みにより、受注基盤の強化と収益性向上を図っています。更に、植物油入変圧器などの環境対応製品の拡販を通じて市場の変化を捉え、環境価値を軸とした高付加価値化により、高収益体質の確立と持続的成長を目指します。

成長戦略 2 事業

変電事業の成長加速と グローバル収益基盤の強化

マテリアリティ：安心・安全・便利な社会の実現

「中期経営計画2027」では、変電事業の拡大を軸に事業構造の高度化を進めています。国内においては、電力会社向け案件を着実に獲得することに加え、風力O&Mや再エネ関連分野の強化により、安定的な収益基盤の確立を図っています。海外では、アメリカ及びインドにおける生産能力増強を完了し、供給力の強化を進めました。これにより、従来シンガポールに偏重していた収益構成は改善が進み、地域ポートフォリオのバランスが向上しています。今後はアメリカ、インドの更なる成長に加え、欧州における真空遮断器の新規展開を進めるとともに、収益性の改善を通じてグローバルでの収益基盤の強化を図ります。

リチウムイオン電池用
交直変換装置

TOPICS

再エネ拡大を支える 系統安定化ソリューション

再エネの導入拡大に伴い、電力系統の安定化ニーズが高まる中、当社は系統用電池システム向けパワーコンディショナー「LP500シリーズ」の展開を強化しています。電池の高電圧化に対応したDC1,500V仕様や最大3,000kVAの大容量化、需給調整市場に対応する一次調整力機能を実装し、大型蓄電所案件への適用を可能としました。また、海外製を含む様々な蓄電池との組み合わせを可能にしたことにより、顧客の電池調達への選択肢拡大に貢献します。今後はVSG^{*}機能の実装を計画しており、再エネ主力電源化を支える電力インフラの高度化に貢献していきます。

^{*}VSG(仮想同期発電機機能)：再エネの割合増加に伴う系統慣性の減少を補う技術として、同期発電機が備える慣性力及び同期化力と同等の特性をインバーターで提供し、系統周波数の安定化に寄与する機能

